

町田市立図書館メールマガジン（2026年3月1日号）

みなさまこんにちは、町田市立図書館です。
メールマガジンを配信します。

新着図書案内・今月の1冊

『疫病退散たべもの記』
(383. 8-ヨ・吉野りり花・論創社)

コロナの収束祈願として、突如注目を浴びたアマビエの存在は記憶に新しい。この妖怪への注目は、コロナ流行の収束を祈るしかないという状況を背景に、様々な疫病退散グッズとして全国に展開し、アマビエ饅頭の販売にまで繋がった。

本書で紹介されているこの事例を見ると、現代社会においてさえも、病への恐れが祈りや願いとなって、縁起物を生み出すことがよくわかる。本書はそんな「疫病退散」や「病除け」という、食に祈りを込めて病を退散させる「食の風習」について紹介している。

例えば愛知県では、日本で唯一、漬物の神様を祀る神社があるそう。神事として行われる「香乃物祭」では漬物の漬け込みが行われ、漬け上がった漬物は万病の薬になると言われている。発酵の仕組みが理解されていなかった時代を考えると、腐らず長期保存が可能な食べ物を、神からの贈り物と捉えても不思議ではない。ほかにも団子やわかめ、生姜や大根、かぼちゃにみかんなど、病除けとして人々の祈りを託された「まじない食」（著者の造語）が数多く紹介されている。

新年には七草がゆを、端午の節句には柏餅やちまきを食べる。近年では節分に恵方巻が定番となり、その季節になればコンビニやスーパーにはたくさんの商品が並ぶ。こうした習慣が現代に根付いていることもまた、人々の祈りや願いが受け継がれてきたことの証明だろうか。本書を手取ることで、人々が病にどう立ち向かってきたのかを、身近な食べ物から読み解くことができるだろう。

新着図書案内・新刊リスト

- (1) 017/ス/・学校図書館新米司書フントー記・須藤 みか／著・少年写真新聞社
- (2) 020. 2/イ/・江戸の読書図鑑・飯田 泰子／著・芙蓉書房出版
- (3) 112/ナ/・なぜ人は締め切りを守れないのか・難波 優輝／著・堀之内出版
- (4) 133. 5/マ/・オックスフォードの女性哲学者たち・クレア・マックール／著・青土社
- (5) 210. 58/サ/・江戸が東京になった日・佐々木克／著・吉川弘文館
- (6) 232/マ/・古代ローマ歴史散歩・フィリップ・マティザック／著・原書房
- (7) 345. 1/サ/・国税最強の精鋭部隊「コメ」・佐藤 弘幸／著・扶桑社
- (8) 380. 6/ミ/・変わり者たちの秘密基地国立民族学博物館・樫永 真佐夫／監修・CEメディアハウス
- (9) 421/ム/・物理学者の自由研究・村田 次郎／著・岩波書店
- (10) 492. 8/ク/・世界を変えた医療器具の歴史・キャロル・クーパー／著・原書房
- (11) 588. 5/コ/・ビールに憑かれた人びと・東風谷 太一／著・青土社
- (12) 594. 3/タ/・エクセルで編み図をつくる・武田 朝子／著・誠文堂新光社
- (13) 645. 2/ワ/・馬と人の古代史・若狭 徹／著・KADOKAWA
- (14) 654. 8/サ/・アーバン・ベア・佐藤喜和／著・東京大学出版会
- (15) 707. 9/テ/・美術館強盗事件簿・フィリップ・デュラン／著・草思社

- (16) 762. 3/ナ/・機械仕掛けの音楽誌・長屋 晃一／著・アルテスパブリッシング
(17) 801. 04/ホ/・言語能力は人工知能で解明できるか・折田 奈甫／編・岩波書店
(18) 811. 1/ク/・「かわいい」言語学・熊谷 学而／著・大修館書店
(19) 910. 2/オ/・黒い古典・大塚 ひかり／著・淡交社
(20) 910. 26/イ/・幻想文学怪人偉人列伝・磯崎 純一／著・筑摩書房

=====

町田市立図書館

ホームページ：<https://www.library-machida.tokyo.jp/>

X：https://x.com/machida_library

◆メールマガジンのバックナンバーは、町田市立図書館ホームページからご覧いただけます。

◆メールマガジンの配信停止、メールアドレスの変更等は、町田市立図書館のホームページからお手続きください。

=====

2026年3月1日発行